

主 題：神に会う備えをする 3

聖書箇所：ペテロの手紙第一 4章10－11節

4章の1節からペテロは、私たちキリスト者は何のために生きているのか、何のために救われ生かされているのかを覚えて今日を生きなさいと教えてくれました。それは「神のみこころに従う」ことであると、7節からその具体的な生き方を教えてくれます。

(ペテロが教える) 終わりの日に相応しいキリスト者の生き方

◆神との正しい交わりを保つこと 7節

◆人との正しい交わりを保つこと 8－11節

○愛において 8－9節

神を愛し正しい交わりをもつこと、そして、兄弟姉妹が愛し合うこと、すなわち、それぞれの罪を赦し合い、もてなし合うこと。

前回にここまで学びました。ペテロは「働きにおいて」も正しい交わりをもつようにと続いて教えてゆきます。

○働きにおいて 10－11節

神から与えられている霊的賜物をもって仕え合うことです。

1. 霊的賜物をいただいた人＝すべてのキリスト者 10a節

「それぞれが賜物を受けているのですから」、この「賜物」とは「贈り物」です。「神の恵み」を表わすことばとして使われますが、新約聖書では救いに関しても用いられます。それは、いただく資格のない者に神が一方的な恵みによって与えてくださるものだからです。人の努力、祈り、希望によって与えられるものではないのです。霊的賜物は生まれながらに持っている能力や才能ではなく、救われたときに神から与えられるものです。

「それぞれが」とあるのは、すべてのクリスチャンには賜物が与えられていることを示しています。イエス・キリストを信じ救われ、新しく生まれ変わったときに、神は例外なくすべてのキリスト者に霊的賜物を与えられたのです。I コリント12：11には「しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」とあり、同じ18節には「しかしこのとおり、神はみこころに従って、からだの中にそれぞれの器官を備えてくださったのです。」とあります。また、ローマ12：6にも「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。」と書かれています。

2. 霊的賜物をいただいた人としての自覚＝皆が働き人である 10b節

「神のさまざまな恵みの良い管理者として、」、私たちは「良い管理者」なのです。「管理者」は主人の家や土地、財産、食糧などを管理し、切り回します。主人のために主人に代わって働きます。主人が損を被らないように細心の注意を払ってすべてを主人のためにするのです。

私たちは神の管理者、すなわち、主に対して責任、働きがあるのです。しかも、その働きを忠実に果たす管理者になることが責任です。「良い管理者」とはその意味です。私たちの持つものはすべて主のものであることを覚えるべきです。自分の所有しているすべての物、財産、才能、時間、いのちも主のもので、だから、それらを主が望まれるように、主のために用いるという重大な責任を全員が負っていることを、ペテロは全キリスト者に自覚させているのです。

皆が同じ働きをするわけではありません。ローマ12：4－5には「一つのからだには多くの器官があつて、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、：5 大ぜいいる私たちも、キリストにあつて一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。」とあり、すべてのキリスト者は特別な存在として各々が責任を負っているのです。「神のさまざまな恵みの」とありますが、この「さまざまな」とはいろいろな色をした、いろいろな種類のことで、ちょうどパレットに絵の具を出して、それらを混ぜるといろいろな色が出るように、それぞれのキリスト者には特別な賜物を与えられているというのです。教える賜物の与えられている人が何人かいても、皆が同じではなくそれぞれ特異であるように、皆独特の霊的賜物をもっているのだと教えるのです。

キリスト者は全員が働き人である、ゆえに、「自分はいてもいなくてもどちらでもよい存在だ、自分

などは必要ではない」というのは間違いです。Ⅰコリント12:14「確かに、からだはただ一つの器官ではなく、多くの器官から成っています。」、19-22節「もし、全部がただ一つの器官であったら、からだはいったいどこにあるのでしょうか。20 しかしこういうわけで、器官は多くありますが、からだは一つなのです。21 そこで、目が手に向かって、「私はあなたを必要としない。」と言うことはできないし、頭が足に向かって、「私はあなたを必要としない。」と言うこともできません。それどころか、からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。」、27節「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。」

ロイドジョーンズはこのように言っています。「新約聖書による私たちの召しは、何かをすることにあるのではなく、何者であるかにあるということである。どうしても必要なひとつのことは、私たちは用いられる存在であるべきだということである。主の働きを阻害するおもな理由は、私たちがあるべき姿になっていないことにある。」と。

3. 霊的賜物が与えられた目的=互いの成長のため 10c節

「その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」とあります。Ⅰコリント12:7には「しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現われが与えられているのです。」とあり、エペソ4:16にも「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」とあります。キリストによって、からだ全体は備えられたすべての結び目により組み合わされ、そして結び合わされ（編み合わされ）ています。それぞれの部分に応じた働きに従ってからだは成長し、そして、愛のうちに建てられるのです。

成長:

1) キリストの力によって教会が結び付けられていく=ちょうど、からだの部分が関節（結び目）によってしっかりと保たれるように。

2) それぞれの部分に応じた働きにしたがって=すべてのキリスト者が自分に与えられた賜物を用いることによりからだ全体が成長するのです。それは、かしらなるキリストの命令に従うことです。そうして、からだはますますひとつとなり成長するのです。カル빈はこのように言います。「もし、私たちがキリストのからだの器官と見なされることを望むなら、何人も自分自身のためにではなく、互いの利益のために生きる者となることである。」と。

4. 霊的賜物の種類 11節

○語る賜物

1) 預言・説教=人の前で神の真理を語ること、みことばを語ることです。ローマ12:6「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。」、Ⅰコリント12:10「ある人には奇蹟を行なう力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。」

2) 知恵のことば=みことばを適用する力です。いろいろな状況にあってみことばの真理を適用して、励ましや導きを与えるのです。Ⅰコリント12:8「ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ」

3) 知識のことば=みことばを理解する力です。学者などです。Ⅰコリント12:8「ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことばが与えられ、」

4) 教え=みことばの教えを為すことです。人々が教えを受け入れ実践するように導くのです。ローマ12:7「教える人であれば教えなさい。」

5) 勧め=慰める、助ける、助言する、元気づけるという意味です。ローマ12:8「勧めをする人であれば勧め、」

○奉仕の賜物

1) 管理（管理運営）=これは「リーダーシップ」です。ローマ12:8「…指導する人は熱心に指導し、」、Ⅰコリント12:28「そして、神は教会の中で人々を次のように任命されました。すなわち、第一に使徒、次に預言者、次に教師、それから奇蹟を行なう者、それからいやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者などです。」、「指導する」（ローマ12:8）も「治める」（Ⅰコリント12:28）もリーダーシップを指す同意語です。「指導する」は導く、管理する、責任を持つ、監督する、統治するの意味で、「治める」は船の舵を取るという意味があります。船の水先案内の技術を指します。人々を動員させて、目標を達成できるように働きかけることができる能力です。

2) 仕える=ローマ12:7「奉仕であれば奉仕し、」

これにも五つの賜物があります。

(1) 助け: これは「人の重荷を自分の上に乗せる」という意味があります。Ⅰコリント12:28「…それからいやしの賜物を持つ者、助ける者、」

(2) 分け与える：自分のことより人の必要を満たすことを優先して、犠牲的に捧げることです。ローマ 12：8「分け与える人は惜しまずに分け与え、」

(3) 慈善を行なう：憐れみ、同情の意味です。苦しみにある人、また喜びにある人と同じ心になることです。ローマ 12：8「慈善を行なう人は喜んでそれをしなさい。」

(4) 信仰：これは「救い」の信仰のことではありません。神に信頼することです。I コリント 12：9「またある人には同じ御霊による信仰が与えられ、」

(5) 霊を見分ける力：そのことが神によるのか、それとも悪霊の働きなのかを見極める力です。また、教会での働きが肉によってであるかどうか、正しいことが何かを見分けるのです。

I コリント 12：10「ある人には霊を見分ける力、」

5. 霊的賜物を用いる際の注意事項 11 b 節

○語る賜物を持っている者への勧め：

「語る人があれば、神のことばにふさわしく語り、」とあります。自分の意見、考えを述べるのではなく、神からのメッセージを伝え続けるようにと言うのです。

○奉仕する賜物を持っている者への勧め：

「奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい。」と、神から与えられる力によって為すことです。

あらゆるものをもって主のために奉仕すること、それが主によって救われ生かされている目的そのものです。どのようなことをする時でも「人のためにしてやっている、どうだ、私は霊的だろう！」というような間違った態度です。マタイ 20：26－28を見ましょう。「あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。 27 あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい。 28 人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」。また、ヨハネ 13：14－15にはこのようにあります。「それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。 15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。」

神の恵みによって用いられていること、神のためにそのことができたこと、自分の知恵や力によってではなく、神が為さしめてくださったことを、どんなときでも忘れないことです。というのは、正しい態度で正しいことを為すときに、神の栄光が現わされるからです。「それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。栄光と支配が世々限りなくキリストにありますように。」とあるとおりです。

メッセージは語り手がほめられるためにするものではありません。それを通してほめられるのは、その中で語られている神ご自身です。語り手であるメッセンジャーはその神がいかに素晴らしいお方かを示すのです。また奉仕も、自分がほめられたり感謝されたり、自分を良く偉く見せるためにするものではありません。その機会を、力を与えてくださった神ご自身を、それを為さしめてくださった神がほめ称えられるためです。奉仕者はこの働きをさせてくださっている神が、いかに素晴らしいお方かを示すのです。

バークレイは言います。「すべての教会の人々が、自分自身のために物事をなすのを止め、神のために なすようになれば、新しい恵みと栄光が教会に入ってくるであろう。」と。